

事業実績報告書

様式2
(2022年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-35	講座名	「沈黙の春」出版60年～レイチェル・カーソンの思いをつなぐ
記載日	2023/1/12	団体名・企業名	レイチェル・カーソン日本協会東海フォーラム

〈講座全体の概要〉(300字程度)

「沈黙の春」でカーソンは、人間が「核」と「化学物質」という恐るべき力を持ってしまったと説いている。
 私たちは、この60年間で公害、原子力発電事故を経験し、恐るべき力の脅威を体感しているのであるが、
 果たしてそこから学び次世代のためになることをしているのだろうか。カーソンは今を見たら何と
 いうだろうか。そんなことを考えて足元から行動できる人材を育てていきたいと講座を企画実施した。



※写真1の説明

11月19日 名古屋国際センター展示室
 パネル展示とビデオ視聴などを行った

※写真2の説明

12月17日名古屋国際センター研修室
 「水俣と福島」の除本教授による講座

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

コロナ禍が落ち着かない中での開催であったが、第1回は20名の参加者があり、あらためて「水俣病」についての関心の高さを認識した。第2回は、上遠恵子さんのビデオに加えて原強さんにミニレクチャーもお願いした。参加者は少なかったが、中学1年生の男子が参加してくれて、多くの知識を得ることができたという感想も寄せてくれた。第3回は、「水俣と福島」というテーマで「困難な過去」をどう継承するかという深い深いテーマであったが、未来につながる内容であった。企画の意図は概ね皆さんに伝えられたと思っている。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)

- ・カーソン、石牟礼の考え方をベースに今の公害問題をお話いただき、とても興味深く学ばせていただいた。
- 未来を作っていく子供たちが幸せに生きていける世の中を作っていかなければと思いました。
- ・実川先生のお話は日本だけでなく地球を見ていっしょだと思います・
- ・水俣・福島の公害から長い年月がたちその歴史の流れからこれからどのように価値転換していくのか、考え、
- 実行していくことに気づかせていただきました。
- ・丁寧なお話で分かりやすかった。
- ・これからのヒトのあり方等を考えるヒントをいただいた。